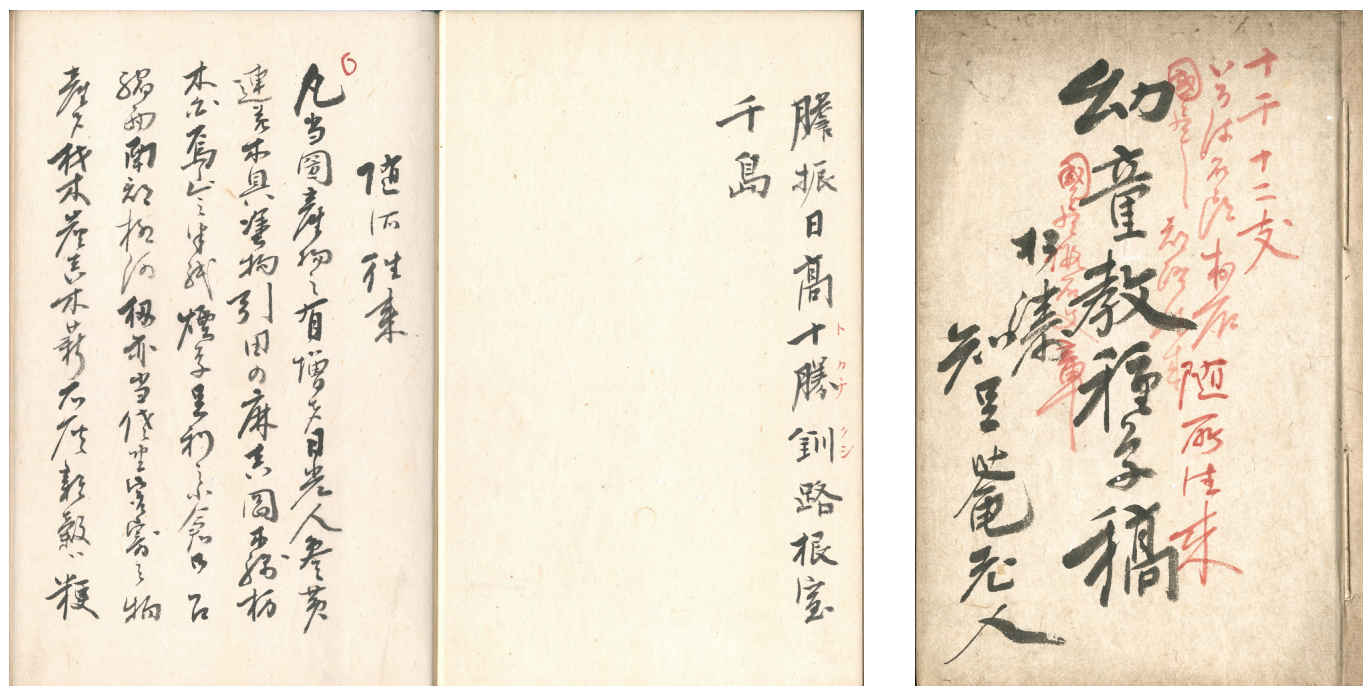


【読楽】033 「随所往来」を読む *読楽箇所=『幼童教種草稿』より「随所往来」と「手習教訓」の全文



■底本概要

幼童教種草稿[随所往来ほか]

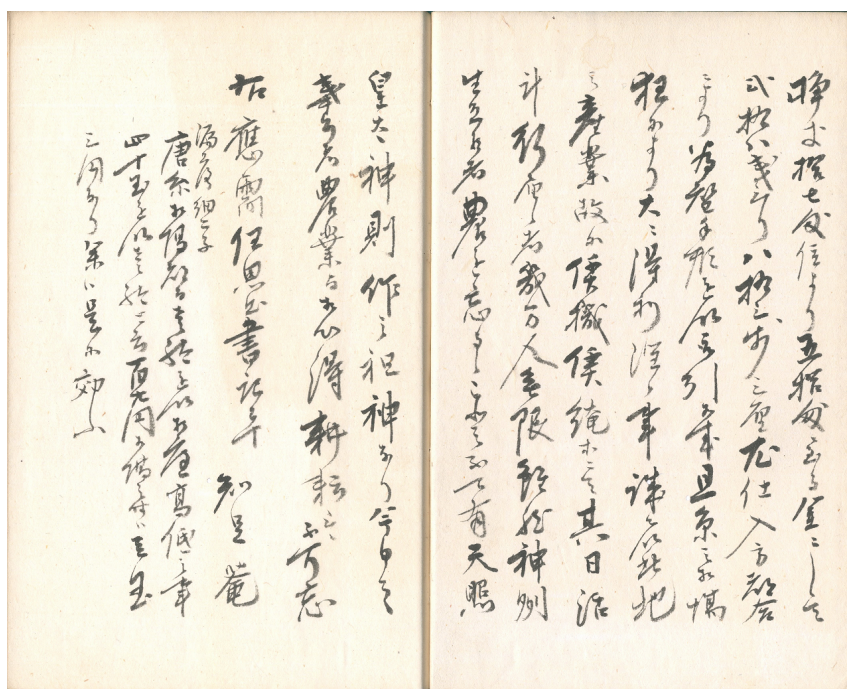
【判型】大本1冊。縦247耗。

【作者】松濤知足庵作・書。

【年代等】明治初年作・書。

【備考】分類「往来物」。『幼童教種草稿』は、「三体いろは(平仮名・万葉仮名・片仮名)」「十干十二支」「名頭字」「村名(下野国諸郡)」「日本国州名仮名文章」「日本国名帖(日本国尽)」「随所往来(下野国物産関係)」「手習教訓(仮称)」「十二月異名等(仮称)」「都路往来(東海道往来)」「旧御大名苗字」「苗字尽し」「正月元日十干による風雨占い(仮称)」から成る手習本の草稿。作者の所在に関する記載がないが、「随所往来」中に「当佐野客寄之物産

…」とあることから、下野国安蘇郡佐野(現・栃木県佐野市)の手習師匠の手控えと思われる。以上のうち「名頭字」以下の諸往来には、流布本と異なる独自の記述が多く含まれるのも特徴。とりわけ「随所往来」は、「凡当国産物之有増者、日光人參、黃連、并、木具(きぐ)、塗物、引田の麻、真岡木綿、栃木白、烏山之半紙、煙草、足利之小倉、御召縮緬、南都柳河」と起筆してまず下野国各地の物産に触れたうえで、「扱亦、当佐野客寄之物産者、材木、炭、真木、薪、石炭…」と続けて、佐野地方の物産(燃料・雑穀・野菜・醸造品・文房具等)、また、農家で用いる用具・日用品、農閑余業の織物類、染色・模様などに関する要語を羅列し、さらに、末尾で、織物の規格や種類、相場価格、工夫次第で得られる利益や、糸相場狂いで得られる利潤にも触れる。最後にそうは言っても、「我が国に生まれた者は農業を忘れず、今日の奉公は農業であると心得て耕耘を忘れてはならない」と締め括る。



随所往来 *松濤知庵老人作・書、明治初年書『幼童教種草稿』*1所収

下野国の主要物産

凡当国産物之有増者、日光人參、黃連、并、木具*2、塗物、引田*3の麻、真岡木綿、栃木白、烏山之半紙、煙草、足利之小倉、御召縮緬*4、南都柳河。

佐野の物産

扱亦、当佐野客寄之物産者、材木、炭、真木、薪、石炭。雑穀者、粳・糯、早稻・晩手(晩稻)、古米・新米、大麦・小麦、大小豆、烏麦、粟、黍、稗、胡麻、荏、菜種、葉荳芋、牛房、大根、人參、茄子、胡瓜、冬瓜、葱、蔴、葡萄、芥子、木綿、唐辛子、薩摩芋、芹、独活、生姜、三ッ葉、蒟蒻、椎茸、干瓢、山葵、蓮根、蕨、松茸。此外、豆腐、味噌、酒、酢、醬油、糍、油、蠟燭、紙、墨、筆等。

主な農具・日用品

且亦、農家二而平常可取扱用具者、鋤、鎌、山刀、鋸、斧、鎌、研石、鉋(包)丁、俎板、手桶、柄杓、皿、鉢、茶碗、鉄瓶、葉罐、燭台、行燈、桃燈、鍋、釜、傘、下駄。

農閑期の副業と関連知識

偕又、農間之稼者、結城島(縞)木綿、縮、紋織、浮織、紅梅織、駒掛臍、雲臍*5、阿波縮なり。阿波洪といふ。

染色者、紺、御納戸*6、花色、浅黄。鳴紐者、藍万筋、同微塵*7、三筋金通し、鉄毛地、茶万*8、茶微塵、絹糸、入唐機、島原機、西川桔梗、乱立*9、細格子、大格子、味噌格子、二重格子、一崩、二崩、子持島(縞)、弁慶*10。此手刷者、毛万筋*11、具粉二候而者、紫、藍河、鬱金、萌黄、金茶、海老茶、鼠粧。島柄・色合、算ふるに暇あらず。

織物の経済的効果

尤、一反二付、二丈八尺五寸定法*12とす。掛目(目方)は拾位より百五十目二至。且、織元之得手により珍柄等出来、豎横和糸を以昔年製候処、唐糸渡来後、豎糸に相用、横和糸にて製す。是を以「合の子」と相唱候。但、一ノ二百目二拾入位より百入二至り、尤、三拾入位之処、和糸二百管*13二相准う。各考うべし。

*1 『幼童教種草稿』は、「三体いろは(平仮名・万葉仮名・片仮名)」「十干十二支」「名頭字」「村名(下野国諸郡)」「日本国州名仮名文章」「日本国名帖(日本国尽)」「随所往来(下野国物産関係)」「手習教訓(仮称)」「十二月異名等(仮称)」「都路往来(東海道往来)」「旧御大名苗字」「苗字尽し」「正月元日十干による風雨占い(仮称)」から成る手習本の草稿。作者は手習師匠であろう。

*2 木具=檜の白木などで作った漆を塗らない器物。

*3 上都賀郡引田村(現・鹿沼市)。

*4 御召縮緬=主として和服に用いられる絹織物の一種。羽二重などとともに最高級の素材として、略礼装・洒落着に好まれる。

*5 駒掛臍、雲臍=意味不明。糸を巻いて玉状または環状にしたものを苧環(おだまき)、あるいは「おみ」「へそ」というので、このようなものを指すか。

*6 御納戸色=緑みの暗い青色。深緑。

*7 藍微塵=縞(しま)柄の一種。経(たていと)、緯(よこいと)ともに藍染糸二本ずつに濃淡の藍を用いた格子縞。

*8 茶万筋=茶の万筋(とても細かい縦縞の文様)。

*9 乱立=緯には経の織切糸を結合して用い、緯糸の残糸を織込んで、不規則な縞になったもの。

*10 弁慶=弁慶縞。弁慶格子。経緯同じ幅で構成した格子縞。

*11 毛万筋=非常に細かい縞模様(3cm幅に19本の縞)

*12 1反は、鯨尺で幅9寸(約34cm)、長さ2丈6尺~2丈8尺(約10m)くらい。大体1人分の衣服に要する長さ。

*13 管=糸管。緯を紡錘状に巻き付ける管。

四季之時候、人氣^{じんき}*1・織柄工夫仕、東西南北二是を掙^{とりひし}ぎ*2、十七匁位より五拾匁二至る。金にして二拾八錢三厘(厘力)、八拾三錢三厘*3。尤、仕入方、都合により為替手形を以取引相成、且、糸之相場狂により大ニ得利潤候事、誠ニ以、此地之産業故に、賃織・賃紵^{えん}?等にて其日活計行届候者、幾万人無限。雖然、神州(に)生立候者、農を忘るゝこと不可有。天照皇太神、則、作之祖神*4なり。今日之奉公者、農業与相心得、耕耘も不可忘。

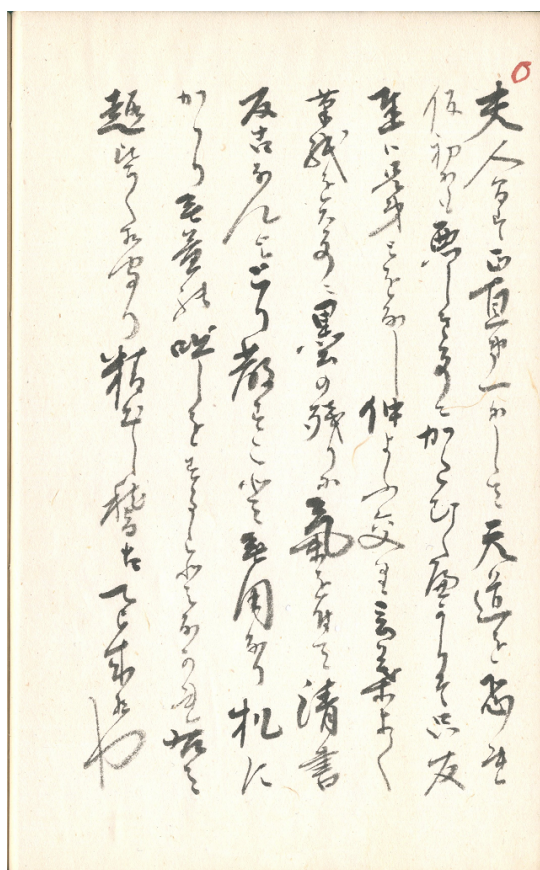
右、応需任思出書記畢。知足庵

漏落細字

唐糸相場知而、一駄^{えん}*5を以相庭高低之事、四十玉を以一駄と云。百廿円相場之時は、一玉三円なり。米は、是に効ふ。

手習教訓 *仮称。「随所往来」末尾に続いて記された半丁の教訓。

夫、人間は正直第一にして、天道を恐れ、仮初めにも悪しき事にかたむくべからず。只、友達は、兄弟とをなじ、仲よふ交り、言葉よく、筆紙を大事に、墨の残りに気を付て、清書・反古なんどとり散すこと無用なり。机にかゝり無益の咄しをすることなかれ。右の趣、堅く相守り、精出し稽古可被成候也。



*1 人気=にんき。世間の評判や受け。

*2 掙ぐ=取り拉ぐ。他を圧倒する。

*3 十七匁位より五拾匁二至る。金にして二拾八錢三厘(厘力)、八拾三錢三厘=前半の17匁~50匁は錢に換算すると(銀1匁=錢1/15貫文=66.7文)、およそ1134文~3335文。後半の「二拾八錢三厘」以下は、明治5年3月の太政官布告における寛永通宝(銅錢)1文=1厘で換算すると、283文~833文となるので、前者が販売価格の相場、後者が利益の目安か(とすれば、いずれも約25%の利益率)。

*4 作之祖神=農神。

*5 一駄=馬1頭で運べる重量で、36貫(約135kg)。一駄120円の運賃なら、一駄40玉(糸玉)なので、1玉3円の運賃となる。